

平成 27 年度 研究計画書

Research Plan FY2015

| | |
|----------------------------------|--------------------|
| 講座名・職名 Course Title・Job Title | ヨーロッパ・アメリカ I 講座・教授 |
| 氏名 Name | 渡邊 克昭 |
| 専門分野 Academic Field | アメリカ文学・文化 |

平成 27 年度 研究計画 Research Plan FY2015

| | | | | | |
|--|---|---------|-------|------|-----|
| 主たる研究テーマ Principal Research Subject | アメリカ文学におけるヒューマン・エンハンスメントの進化と「幸福の追求」の未来学、アメリカ的想像力と〈死〉のアポリア | | | | |
| 研究計画 Research Plan | <p>「アメリカ文学におけるヒューマン・エンハンスメントの進化と「幸福の追求」の未来学」においては、本年度は共時的観点から本テーマのヴィジョンを多様なメディア表象の分析を通じて抽出するとともに、Margaret Atwood の Oryx and Crake (2003)、The Year of the Flood (2009)、MaddAddam (2013) などの小説を主たる手掛かりとして、次の 4 つの問題系を考察する。1) 遺伝子操作など、生命のデザインに関わる領域、2) 薬物等、精神のデザインや補強に関わる領域、3) 人口知能など頭脳のデザインに関わる領域、4) 人体改造など、身体のデザインや増強に関わる領域。これらと並行して、生殖技術のあり方が、将来的には人々の家族形成のあり方を根本的に変化させることを積極的に受容すべきだとを主張する推進派と、それに異議を唱える規制派の文献を学際的に検証することにより、本研究のさらなる充実を図りたい。</p> <p>「アメリカ的想像力と〈死〉のアポリア」のテーマにおいては、Bellow、Barth、Powers、Erickson、DeLillo といった現代アメリカ作家に焦点を絞り、彼らが楽園に埋もれた〈死〉のアポリアとどのように向き合い、そこからいかなるテキストを紡いできたか、〈死〉をめぐるアメリカ的想像力のしなやかな応答を浮き彫りにしてみたい。</p> | | | | |
| 共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research | 英米・英語圏文学 | ヨーロッパ文学 | 思想史 | 文学一般 | 芸術史 |
| キーワード Keywords | ヒューマン・エンハンスメント | アメリカ文学 | 幸福の追求 | 進化 | 死 |